

令和3年度に向けて

コロナ後の社会を見つめ 今できることを確実に

武蔵野市長

松下玲子まつした れいこ

当たり前で尊い
日常のくらしを大切に

昨年、令和2（2020）年の年頭には、新型コロナウイルス感染症が全世界でこれほどまでに猛威を振るうとは誰も考えていなかったと思います。

現在はワクチンの供給も始まり、明るい兆しも見えてきましたが、新型コロナが完全に終息するまでには相当な時間がかかると考えられます。今後は、新型コロナの感染対策を意識しつつ、その中で「いかにによりよく生きるか」が問われる世の中になっていると実感しています。

武蔵野市は、コロナ禍においても、当たり前で尊い日常のくらしを大切にすることに注力しながら、これまでさまざまな市独自の支援を行ってきました。市内事業者への支援金をはじめ、この2月には在住市民すべての方を対象に市内での買い物などに利用できる「武蔵野市くらし地域応援券」を1人

5千円分配付しました。感染防止に對して最大限の注意を払いつつ、いかに日常生活を維持し、命を育んでいくか。武蔵野市は基礎自治体として、新年度もその点に力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

柔軟かつ臨機応変な姿勢で 新たなチャレンジを

先行きが不透明な世の中であり、武蔵野市としてのさまざまな事業も通常通り行うことが難しい状況ではありますが、それでも私たちは「コロナ後の社会」を見据えて、今行うべきことを着実にやっていく責務があります。現在、武蔵野市は第六期長期計画の二つとって事業を進めています。新年度はその2年目になります。長期計画を踏まえ、学校をはじめとする老朽化した公共施設などの更新を着実に進めます。新年度の2学期からは、市立の全中学校と小学校の一部を対象とした給

食の調理場を新たに開設するなど、必要な施設の建設や更新を確実に進めていきます。

また、武蔵野市を含めた日本の未来にとって最も大切なのは、安心して子どもを産み育てることができるおらかな社会をつくることだと考えています。これまで武蔵野市では子どもの医療費は15歳まで無償でしたが、条例を改正して、令和3年度からは18歳までの医療費を無償とする助成制度を開始します。まず今年の4月から入院の無償化が始まり、令和4年度からは通院も含めて、所得制限なく18歳までの医療費無償化を実現します。子どもは「未来の大人」です。今の大人たちが社会全体で「未来の大人」の健やかな成長を見守りながら支えていくこと。市や学校、家庭の役割を明確にしながら、安心して子どもを産み育てることができると寛容な社会をつくるのが大切です。そうしなければ、持続可能な社会は実現しないのではないのでしょうか。妊娠期から18歳までの子どもの、切れ目のない支援を行っていくことをメッセージとして発信していきます。

新型コロナによって、さまざまな事業やイベントは延期や中止となりましたが、その一方でオンラインでのイベントに切り替えたことで、これまで会場に來られなかった方が参加できるようになるなど、プラスの側面が見られたこともありました。行政運営においてはひとたび事業の計画や内容を決められませんが、コロナ禍においては、柔軟で臨機応変な変更や改善が求められるようになり、そのことで結果として新たなチャレンジができる可能性も生まれました。武蔵野市の長期計画では「未来に挑戦 武蔵野市」という副題を付けていますが、この言葉通り、コロナ禍とコロナ後の社会を見つめながら柔軟で実行力のある挑戦を続けていきたいと考えています。

